

19、
罪惡觀無常觀

道綽禪師の安樂集に「譬えば人有りて、空曠の廻なる処に於て、怨賊、刀を抜き勇
を奮ひて直ちに來りて殺さんと欲するに値遇ひ、此人徑に走りて視るに一の河を度す
べし、未だ河に到らざるに即ち此念を作さく、我河岸に至らば衣を脱ぎて渡るとせんや、
衣を着けて浮かむとせんや、若し衣を脱ぎて渡らんには、唯暇なきを恐る、若し衣を着

けて浮かばんには復首領全くし難きを畏る、爾時、但一心に河を渡る方便を作すありて余の思想間雑することなきがごとし、行者亦爾り、阿弥陀仏を念ずる時、亦彼人の渡るを念ふて、念々相次ぎ余の思想間雑することなきが如くせよ」と仰せられてあるが、剣を抜いて追掛けられているとは、無常の風の激しさを意味しているのではないか。衣を脱ごうとすれば帯は堅く結ばれて解くことが出来ないとは、無明業障の罪悪は脱れる事が出来ないとの意味ではないか。この無常観と罪悪観とによらなければ信仰が徹底しないと教えてあるのだ。それに何ぞや、自己の罪悪に目醒める事もなく、自己の無常の暴風に驚く事もなく、説く人も聞く人も謡い半分、居眠り半分、我宗祖親鸞聖人は様は歎異鈔の第二節目に「いづれの行もおよびがたき身なればとても地獄は一定すみかぞかし」と仰せられてあるぞと坊さんが叫ぶと、「左様でございますか有難うございませう」と同行は涙を流して喜んで何が有難いのだ。それは声や節で感情の猿が踊っているだけではないか。いづれの行も及び難き身で有ったか、後生の一大事が苦に成ったのか、罪悪深重に驚いたのか、「いや私達は出来ないから聖人様が私の身替り

に難行苦行をして下さったのだ」と、とぼけるな、私の後生の一大事の身替りが出来るか、村役場か市役所に代理で出頭して貰う位に思っているのか。私の身替りに死んで下さったか。馬鹿たれ、後生は一人凌ぎと言つてるではないか。独生独死独去独来とお経に説いて有るのを知らないのか。御飯も代理で食べる訳に行かないのに。況や魂の代理が出来るか。信仰の代理が出来るのなら信心も安心もいらぬぞ。釈迦や親鸞の店員や給仕に関係せずに阿弥陀の問屋に任して置け。それは任したと言ふものだから、槍放しと言ふものだ。いや我々が出来ないから聖人様が身替りにと坊主が勝手に教えているが、聖人様が末代の衆生の身替りに修行すると仰有ったか。お前達も身替りに修行して下さいと頼んだか。お前は洩れているぞ、聖人様に修行して貰つて自分が参れると思つているのかい。歎異鈔の終りを見よ「聖人のつねのおおせには、弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」と、言うてある。坊主も聞いています。同行も此の御文を有難がつて歌うたり流したり、感激したり踊つたりしているが、どこにお前のためと書いてあるのだ。「弥陀の五劫思惟の願をよ

くよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」と書いてあるではないか。言うて
いる坊さんの為でもなければ聞いている同行の為でもない、「ひとへに親鸞一人が為な
りけり」と書いてあるではないか。お前の身替りとはどの文を捕えて言っているのだ。
馬鹿もよう揃うたものだ。聖人の御苦労の話に涙をこぼしたつてお前の後生の解決に
はならないのだ。聖人は他人の為に後生の苦労をしたのではない。自分の今の苦惱
に驚いて今親に逢うた慶びを述べられて、「おーい一切の道俗よ、この境地まで来れば
広い天地があるぞ、一切の有碍に障りのない境地があるぞ」と呼んでおいでになるのだ。
同行よ、いや僧侶よ、針が正しく進まなければ糸は正しく縫えないのだ。僧侶に
無帰命安心が多いから真宗が衰滅するのだ。合点したのは深信ではない。学問は信仰
ではない。感情の涙に誤魔化されるなよ。その下に逆謗闡提の劣機があるぞ。それが
いるから親様が御苦労なされたのだ、と御苦労でかぶせている間は機法合体ぞ、合体だ
から離れる時があるのだ。説教を聞いている間だけ有難いので、その前後は何ともな
いのだ。一体にさして頂いたのなら念々称名常懺悔、称々念々常歡喜で何時も

黒煙を噴き上げている儘が歡喜、胸に満ちた慶びが有るのだ。弥陀の名号はお育てを蒙れば自然の徳として罪惡觀と無常觀は出て来るのだ。光明無量の御照らしにより、無智無明の煩惱がよく見えるのだ。根本煩惱枝末煩惱、一切の悩みは苦しみと変わり、一切の苦しみは又復三業に顕れて苦果を招くのだ。

この荷い切れない塵数の業に気づかずに平気で暮らしている事が照らし出されて、脱ぐ事の出来ない業の衣になかされるのだ。泣いてくれれば可愛らしいけれども洪太い強情我慢な心は動かないのだ。その儘次の世界に運ばれたらどうなるのだと切り詰めた時が 寿命無量の覚体に比べて露より脆い命を抱えながら何時迄生きる積りなのか、急げ急げとせき立てられた時が 無常觀が顕れてきたのだ。だから弥陀の名号のいわれを聞き、信仰が深まれば深まる程自然の徳として罪惡觀と無常觀は深まるのだ。深まらない人は信仰が徹底しただけだ。